

Keio University



東村山三田会 Vol.15

発行人：給田俊哉 編集人：東村山三田会会報編集委員会

2023年新年を迎えて

会長 給田 俊哉

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、4年目を迎えるコロナ禍の微妙な動きの中ではありますが、2023年の新年をご家族と一緒に元気に迎えられたことと思います。

当会現執行部にとり今期2022年度は、発足して早や5年目を迎えましたが、2020年春より続くコロナ禍の為、計画しておりました、各種行事をこの3年近く縮小せざるを得ない残念な状況にありました。

しかし、当会の活動目的の一つである社会貢献活動の一環としては、連合三田会への3万円の寄付、恒例のデュオの会のコンサートへの経済的・人的サポートを、また、クリスマス会や、限定した同好会活動については、対コロナ対策をしっかりとって実行致しました。

デュオの会は、一昨年は無観客コンサート&YouTube配信としましたが、今回、2022年10月は、当日、演奏を2回に分け入場人数を半減させて実施致しました。

加えて今回は創立10年を迎える第10回記念コンサートでもありましたので、特別ゲストにメゾ・ソプラノの実川裕紀さんをお迎えし、生の演奏を皆様に楽しんで頂きました。

会員同士の交流・親睦をご家族と共に図る意味では、12月18日にご存知のとおり、クリスマスパーティーを開催し、慶應OGの小梅さんのマジック等を楽しむとともにご出席の方々のお元気な姿にお会いする事が出来ました。

一昨年同様、ご出席の皆様には美味しい仕出し弁当をお持ち帰り頂くことで対応し、恒例の豪華景品多数のビンゴゲームもご家族と一緒にしっかりお楽しみ頂けたと思います。

社会情勢としては、欧米におけるコロナ禍の大幅減少に比べ、逆に日本では大幅拡大傾向にあると言わざるを得ず、欧米の対応を参考にすると、ノーマスクでの感染による新たな免疫確保の意味の理解、さらには欧米でしっかり普及している治療薬使用を日本でも早急に拡大・徹底を図り、無論ワクチン接種は引き続き継続するとしても、With Corona生活を乗り切ることが大切だと確信します。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、ご家族を含めてくれぐれもご健康維持に努めて頂き、明るく元気な生活をこの2023年も実現されますようお願い申し上げます。

当会へのご理解、ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



第14回誕生会 2022年11月19日

11月19日(土)、3年ぶりの誕生会が「日本料理 ひら川」で開催されました。

コロナの影響でしばらく開催できていませんでしたが、久しぶりの誕生会を開催できました。

一時下火となっていた感染状況がまたぶり返しの兆しが見え始めていますが、なんとか開催できる状況と判断できました。

3年ぶりの開催ということで、今回は誕生月を絞らず全会員に開催の案内をお送りしました。

誕生会というよりも、久しぶりの懇親会・飲み会としての開催です。

場所は以前にお世話になっていた「日本料理 ひら川」で、12名の利用で貸切にさせていただきました。

17時30分の開催時に12名の参加者全員が集まり、給田会長の挨拶と清水さんの乾杯ご発声で会が始まりました。

参加者の中では宮川さんが初めてのご参加で、簡単な自己紹介を頂きました。

今年4月にお仕事をリタイヤされ、これからは三田会の行事に参加できる機会が増えるとのことで、興味を持たれた同好会への参加を呼びかけました。参加、お待ちしております。

色々な話題が尽きない中、一番活発に話が弾んだのが「お墓」の話題でした。

どこからその話しになったのか定かではありませんが、墓地、散骨、墓じまいなど、高齢者の集まりならではの事なのでしょうか。

他には、正福寺の「地蔵まつり」や、定番ですが「健康」など色々な話しが出て盛り上がっていました。おいしいお酒と料理を楽しみ、20時にお開きとなりました。

なお、今回は誕生月を限定しないで会員全員へご案内しましたので、恒例の花束の用意はしませんでした。

新型コロナの第8波が懸念される中、来年も三田会行事が開催できることを願っています。

<田中 康之 記>



三田キャンパス見学 2022年11月5日

天気にも恵まれ、懐かしい三田のキャンパスを見学してきました。

参加者は8名、内1名は会員の奥様です。

10時15分、慶應正門前に集合し、北館の塾員センター前で本日も案内いただける塾員センター中里課長と待ち合わせです。

まずは、慶應のシンボルとも言える「旧図書館」を見学しました。

現在は、「慶應義塾史展示館」となっており、福澤諭吉と慶應義塾の歴史が色々な資料と共に紹介されています。

当日は企画展として「福澤諭吉と『非暴力』—学問のすゝめ150年—」展が開催されており、皆さんかなり興味を持って観られていました。

続いて「三田演説館」の見学です。

三田会として塾員センターに案内をお願いすると、通常は入れない重要文化財「三田演説館」の中にも入れていただけます。

1875年に建てられた歴史を感じさせる外観と内部の重厚な造作にとっても感動しました。現在も特別な行事等に利用されており、空調・音響は現在の仕様に整備されています。

なお、以前旧図書館の前の設置されていた福澤諭吉胸像が、旧図書館の免震工事のため演説館の前に移設されました。

ここで全員の記念撮影です。

その後、「旧ノグチ・ルーム」、「法科大学院の模擬法廷教室」、東別館「慶應義塾ミュージアム・コモンズ」などを見学して解散となりました。

新しい建物なので当然ですがバリアフリーとなっており、南館で乗った地上3階から地下4階までのスケルトンのエレベーターは、私の知る昔の大学からは考えられない設備でした。

見学終了後、7名で会食し、アルコールも入ってのんびり帰宅の途につきました。

見学の対応を頂いた塾員センター中里課長に感謝いたします。

<田中 康之 記>



デュオの会記念コンサート 2022年10月30日

2022年10月30日(日)、第10回「デュオの会コンサート」が開催されました。

コロナ感染予防のため、公演を2度に分けて実施し、各回60名程度とすることに致しました。

コロナ禍以前は、公民館に置いたチラシは毎週50枚位補充していたのですが、今年は補充はなく、余ったチラシ200枚ほどを近隣のお宅に投函するという状況でした。

会員にメールで参加のご協力をお願いしましたが、反応は薄く、役員と前役員で席を埋めねばと奔走しました。

幸い、東村山稲門会から8名、近隣三田会から4名のご参加も頂き、何とか協賛としての役目を果たすことができました。

毎回、気になる天候ですが、秋晴れでお出かけ日和となりました。

初めての2回公演で、座席の偏りが心配でしたが、2回目若干少ない程度でホットしました。

今回は、特別ゲストとして、メゾソプラノの実川裕紀さんに出演して頂きました。

バイオリンの紺田会長は、昨年喜寿を迎えましたが、会場の皆様の手拍子に合わせ情熱大陸を演奏しました。

今回は、試しに参加していただき評価を頂きたいということで招待券を配布しました。

「ピアノ教室の発表会並みと思っていたがレベルの高さに驚いた」とのお声も多数ありました。

当会の協賛後、着実にフানের増加を肌で感じていますが、会員の参加が極めて少ないという悩みがあります。

近隣三田会も同じような演奏会を実施していますが、会員全体で会の行事を盛り上げる一体感を感じます。

打開策があれば教えていただきたいと思っております。



< 斉藤 忠義 記 >



Xmas パーティー 2022 年 12 月 18 日

2022 年度の Xmas パーティーを開催しました。

新型コロナの流行はまだ沈静化していませんが、開催できる状況と判断でき、感染対策を十分に取りながら開催することができました。

今年は、会員・準会員 16 名、家族 7 名、デュオの会 5 名、マジシャン小梅さんの合計 29 名の方に参加いただきました。6 名の子供さんに参加いただき、Xmas パーティーらしいにぎやかで楽しいパーティーになりました。

会場の「サンパルネホール」で飲食がまだ制限されています。「食事はできるがアルコールは駄目」ということで、今年もオードブルのお弁当を用意してお持ち帰り頂きました。帰ってからゆっくりアルコールと共に召し上がられたと思います。

結田会長にご挨拶をいただいてパーティーの開演です。

最初のアトラクションは、今年の総会でもお願いした慶應 OG の「マジシャン小梅さん」のマジックショーです。今回はご家族もお呼びするので子供達に楽しんでもらいたく、続けての出演をお願いしました。華やかな 30 分のショーを大人も子供も楽しませてもらいました。

次のアトラクションは、デュオの会のミニコンサートです。デュオの会の上野姉妹に特別にクリスマスソングを歌ってもらいました。ステージ上で上野さんのお子さん達が曲に合わせて踊っていて、とても微笑ましい光景でした。

最後は、恒例のビンゴ大会です。ゲストの小梅さんにも参加頂きました。

例年のようにシクラメン、慶應グッズ、お菓子、差し入れのお酒などたくさん準備しました。

ビンゴの揃った方から賞品を選んでいきますが、やはりシクラメンは人気の賞品です。

最後に若き血を肩は組まず小さい声で合唱し、閉会になりました。

会場での飲食ができず、懇談の時間が取れないアルコール抜きのパーティーですが、マジックショー、ミニコンサート、ビンゴ大会で楽しんでいただけたと思います。

来年は、飲食しながら、マスクを外して歓談できるパーティーが開催できることを願っています。

<田中 康之 記>



同好会通信♪

☆ゴルフ同好会☆ (16名)

【世話役 豊本節雄 (S53 年卒) 連絡先 stoyo512@yahoo.co.jp TEL 042-346-4065】

第10回ゴルフ同好会開催 (11月22日 於 立川国際カントリー倶楽部・奥多摩コース)

コロナ禍でキャンセルとなっていた同好会ゴルフコンペを再開しました。今回は、新たに世話役を引受いただいた豊本さんが、準備万端整えていたのですが、開催日の2週間ほど前から体調不良となってしまう、神尾が臨時で世話役代行をさせていただきました。

同好会としては3年間のブランクを経ての開催で感慨深く、暫くお目に掛かれなかった方々と好天の下で富士山も遠望することができ、気持ち良くプレーすることが出来ました。偶さか、豊本さんの同期の東大和市在住の水上市にもご参加いただき、辛うじて2組となりました。

結果の方は、実力者の市川さん (S45 卒) が連続優勝、小駒さん (S50 卒) が準優勝、ゴルフ場の予約の労を取っていただいた内田さんも手堅くプレーされて3位となり、事故もなく恙なく執り行うことができました。

コロナ禍で風の通るといことで最近のゴルフ場は平日でも混んでいますが、当同好会の方は参加人数が今回は寂しく、次回は今年の5月辺りで予定し、何とか3組でコンペを開催出来ればと、確認し合って散会となりました。

＜神尾 常夫 記＞

☆あるいて三田会東村山☆ (15名)

【世話役 鈴木 実 (S50 年卒) 連絡先 minoru_s@1975.jukuin.keio.ac.jp TEL 090-6539-8336】

2022年11月7日

「この指とまれウォーキング」第1回 秋色の玉川上水緑道を歩く！

第1回の参加者は、小島さんと私のたった2名。

この1、2年は通常の歩く会の参加者も減少ぎみ。なかなかスケジュールが合わないのか、世話役の提案するコースに魅力がないのか、ほかに理由があるのか不明ですが、一人でも多くの方に参加してもらう策の検討する必要がある。

そんな中で始めた、日程調整など気にせず、思い立ったらすぐ西武鉄道のウォーキング企画に便乗する「この指とまれウォーキング」であるが、こちらもこの先がちょっと心配。

集合場所の西武拝島駅に降り立って空を見上げると、雲ひとつない秋晴れ。比較的暖かな日中でウォーキングには打ってつけである。

10時30分に拝島駅改札で待ち合わせた小島さんと合流し、駅を出た広場に設けられた受付へ。受付開始の10時前後は混むとの注意事項に従い、30分後に待ち合わせたにもかかわらず、受付は予想外の人出である。

申込書に住所氏名等の記入して、受付に提出し、コース案内をもらいスタート。

スタートして直ぐの踏切を横断し、直ぐの道路を横断すると川沿いに玉川上水概略を記載した「玉川上水緑道の碑」を読み、江戸時代の建設の由来などを知る。ここからはずっと玉川上水に沿って歩き始めました。

男性、女性問わず一人で参加した方々の歩くスピードは驚くほど。緑道の木々、玉川上水の澄んだ流れ、

足元の落ち葉などなどには目もくれず。ひたすら前へ前へと歩を進める姿はまるで修行僧。

小島さんと私の2G（爺）は、マイペースでゆっくりと川沿いの緑と落ち葉を楽しみながら進みます。歩くこと約1キロで拝島上水橋を渡ると右側に昭和の森ゴルフコースが見えて来ました。現役時代のこのゴルフコースでのプレイのことなどを話しながら歩き、美堀橋の手前にあるベンチで一休み、水分補給。

ひと息ついて再スタート、30分程度で松中橋を渡り、右手に見えた昭和の森ゴルフコースを過ぎて道路を渡ると、住宅地に沿った上水緑道を歩くことになります。少し歩くと一番橋、左手に保育園が見え、歩き続けると天王橋、信号を横断すると玉川上水からいったん離れ、五日市街道を少し歩きます。その先の信号を左に入り緑道に戻り、すぐに残堀川と玉川上水が交差する上宿橋へ。

残堀川沿いのベンチでお弁当タイム。昼食・休憩に約30分、また歩き始めるとゴールはもうすぐ。新家橋を渡り10分程度でゴールの武蔵砂川駅に到着。

2022年11月25日

「この指とまれウォーキング」第2回 紅葉の吾野・東郷公園を訪ねる！

「この指とまれウォーキング」第2回は、「紅葉の吾野・東郷公園を訪ねる！」参加者は5名、内訳は「あるいて三田会東村山」の会員は小島さんと私の2名、会長の給田さんご夫妻、斉藤さんの3名です。

前日の雨に打って変わり、雲一つない青空しかも暖かいウォーキング日和。西武線吾野駅前の受付にて申込書に氏名等を記入し、ガイドマップを受け取り10時40分過ぎにスタート。

比較的平坦な道を歩くこと約20分で東郷公園の入り口に到着し、さらに進み社務所の少し先にある入山料投入箱に入山料を入れ、いよいよ入山。

頂上の秩父御嶽神社を見上げると、一気に登りきる急こう配が目の前に。まずは上り階段を約100段上がると左右に分かれる山道に出ます。左手の山道を歩くこと約1時間で中央広場に来ました。いよいよ本丸の秩父御嶽神社が真上に聳え立つ地点に到着。

ここからは秩父御嶽神社へ300段以上ある急こう配の階段を上って行くか、右側の山道を上って行くか迷うところ・・・。

ここまで来るにも相当ハードなウォーキングだったせいか、小島さんと私だけで階段を使い頂上の秩父御嶽神社を目指すことになりました。給田さんご夫妻と斉藤さんは中央広間で待っていることに。

急こう配の階段を、踊り場で休み休み上ること約30分、頂上の秩父御嶽神社に到着。息が上がり、汗で下着もビショリ。ひと息ついてからお参りをし、神社周りを一周して3人の待つ中央広場へ。下りは階段の角度が急で足元は厳しいものの、肉体的には意外と楽で約10分で合流できました。



再び5人になり中央広場から左側に歩いて数分の東郷神社に行き順番にお参り。神社の右上に位置する至誠館とロシア製大砲はさらに急こう配を上るため、私が代表してひとりで見学し、戻って皆さんに報告。

ここからは下りだけ。上りのときに見落とした東郷元帥の銅像、その斜め下の戦艦三笠がロシアの砲弾を受けた甲板を見ました。

あとは行きにきた道をそのまま戻り、ゴールの吾野駅に到着です。

2022年12月7日

「この指とまれウォーキング」第3回 横瀬 木の間コースから琴平丘陵へ！

西武秩父線の横瀬駅で下車し、駅の外に出て空を見上げると、正に抜けるようなと表現できる青空である。ただ気温は5度台、身の引き締まる寒さとはこのことかと妙に納得してしまう。今日は「この指とまらない」単独ウォーキング。

駅前の受付で申込書を提出し、案内パンフを受け取り10時45分ごろスタート。

舗装された道を歩くこと10分ぐらいで山道に入る。

案内所で「前日の雨の影響で滑り易い」ので十分に注意して歩くよう説明を受けたが、本当に滑り易く歩きづらい山道である。歩くこと15分ぐらいで木の間コースに入る。直ぐに急な登りとなり滑り易いので慎重に少しスローダウン。木の間コースに入って直ぐの「ひやくにちたんぼ跡地」をチラッと見てさらに上り。

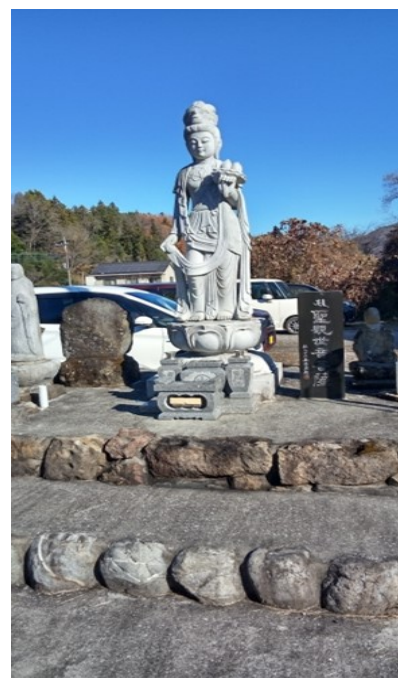
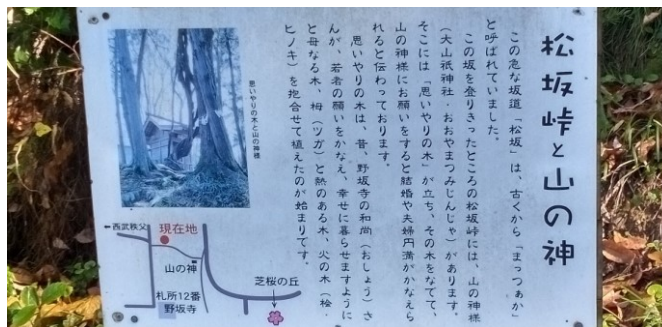
道標をチェックしながら30分ぐらい上り続け、歩きやすい林道を進むと左手に琴平丘陵が広がる琴平ハイキングコースに入る。さらに進むと右手に羊山公園が見え始め「ふれあい牧場」の直ぐ先に休憩用のベンチがあり休憩。水分補給。

ここからは急な下り坂しかも滑り易い状態。二度ほど滑って転倒しそうになり、手すりを掴んでなんとか難を逃れ地上に降り立つと、市内の中心道路に出ました。歩くこと数分で西武秩父駅に到着、本日のゴールです。

たった一人で黙々と歩き続けたせいか、パンフレットの標準走行時間1時間45分を切って1時間30分で完歩！

11月16日(水)、25日(金)、12月7日(水)の3回実施した「この指とまれウォーキング」は、世話役の鈴木が呼び掛け人となりました。3カ月ごとに出される西武鉄道主催のウォーキングイベントに便乗する形は、どなたでも呼びかけ人になり実施することが可能です。ぜひ自分の関心のある企画をピックアップして、呼び掛けてください。

<鈴木 実 記>



☆麻雀同好会☆ (21名)

【世話役 田中康之 (S52 年卒) 連絡先 vvtanaka@m7.gyao.ne.jp TEL 080-6528-0202】

東村山三田会が発足した2014年に、会員相互の親睦の機会を増やすため幾つかの同好会も発足しましたが、最初に活動が立ち上がったのが麻雀同好会であったと記憶しています。私もどの同好会に入るか迷っている時に当時の世話人の方から人数合わせのために誘われたのがきっかけで参加しました。私もそれなりに雀歴はあったのですが、どちらかという勝負には弱く鴨葱の部類でしたので、参加される皆様はきっと歴戦の勇士で強者ぞろいであろうと躊躇しながら、同年6月に第1回のお手合わせをさせて頂きました。参加者は7人で交代をしながらの初打ちでしたが、流石に皆様紳士の集まりで剛者振りも些かも見せず、三無い（賭けない、飲まない、吸わない）の健康麻雀にも拘らず仲間作りを第一にゲームを楽しんでおられたことに感心しきりでした。その日の順位は記憶にありませんが以後も続けていく気になったのはこの日の印象が決め手でした。



その後参加メンバーも女性部会を含めて21名になり、現世話人の田中さんによると以後昨年12月迄8年間で69回も開催されたとのことで、恐らく他の同好会よりも一番の開催頻度ではないかと思えます。この間3年前からは新型コロナ禍で開催日も激減しながらも何とか状況を見極めながら、また出席希望者が4の倍数になる日や直前の事情による欠席者が出た場合の人員調整等々多大なご尽力をされている田中さんのお蔭によるものと深く感謝しています。

私事ですが、一番の思い出は、2015年から始まった東村山稲門会との慶早戦で2019年までの間に4回開催され、何と不肖私が4連覇できたことです。自分ながら信じられない結果でしたが、これはルールが三田会ルールでなく稲門会ルールで多分自分に合っていたことや、稲門会の方々の優しい心遣い（勿論三田会の皆様も優しいですが）によるものと思っています。その後は稲門会側の事情やコロナ禍で行われていませんが、機会があれば再開され、5連覇にチャレンジしたいです。勿論メンバーに選ばれればですが、最近の三田会での戦績ではどうなりますか。

最近の寄る年波で指の握力低下で牌を落としそうになったり、視力低下で対面の二萬が三萬に見えてチョンボしそうになったりとおたおたすることも多いのですが、皆様にご迷惑をお掛けしないようにして、レッドカードが出されるまではもう少し楽しませて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。
＜清水 英男 記＞

☆俳句同好会☆ (9名)

【世話役 佐藤嘉江子 (S57 年卒) 連絡先 kae_ztjz@yahoo.co.jp TEL 090-1734-7582】

「自選句五十句」の“野望”

まず自己紹介を致します。昭和二十五年、兵庫県尼崎市出身。昭和四十九年、政治学科卒業後、札幌の会社に就職。定年退職後の令和三年末に一大決心で五十年ほど住み慣れた北の大地を離れ、縁もゆかりもないご当地、東村山市に転居しました。（とはいっても長男一家が拙宅より徒歩五分にあり、いわば孫の顔見たさです。）

ご当地三田会は昨年夏に入会、同時に俳句の会にも参加させていただきました。俳句をいじり始めたのは三年ほど前、きっかけはご多分に洩れず某民放テレビ番組。「あれなら自分にも出来る」と思ったかどう

か。ともかくも駆け出しの新参者でございます。そんな小生ですが、暫く前の目にした俳句本の一句に衝撃にも似た感銘を受けました。

「天国はもう秋ですかお父さん」

「お父さん」の作品としか紹介されていなかったのですが、わずか十七音で、しかも平易な言葉のみで、これ程の感情を表せるのか、泣けました。同時にこんな句を詠みたいとも思いました。

さて、タイトルの「自選句五十句」ですが、(これも某番組の影響でしょう) 齢七十を超えた小生の「東村山残日録」として、是非編み上げたいと願っております。小生にとっては“野望”“大望”であります。

因みに俳号「蹴平」ですが、会社時代の慶應OBの方がラグビー好きの小生のためにつけてくれました。

(年末には秩父宮に慶應の試合を観にいきました)

話が横道にそれましたが、ともかくも五十句選もまだ自分の納得できた句は数句にすぎません。

句会の諸先輩はじめ皆様、何卒御指導御鞭撻の程、お願い致します。

糸垂れて寄する白波無月かな	正典
靴音や夜寒の巴里の石畳	蹴平
手袋を隔つる仲のふたりかな	かえる
初夏の寺阿吽の像の穏やかに	弦六
樹林帯ぬけて眼下に蜜柑山	岳徒
旧友は即かず離れず鳥渡る	蓑
投票日道路の隅に蟻の国	丸女
蟻地獄崩れし砂の音静か	凡水
首垂れ月夜の棚田金の波	栗丸
いちめんの庭草が置く露の玉	千枝子

<鈴川 秀平 記>

☆慶美会(スケッチ同好会)☆ (6名)

【世話役 清水英男 (S38年卒) 連絡先 hidshim@jt.ejnet.ne.jp TEL 090-2655-9231】

コロナ禍により活動休止中

☆カラオケ同好会☆ (20名)

【世話役 斉藤忠義 (S44年卒) 連絡先 yasaka_kumegawa@yahoo.co.jp TEL 090-7005-9959】

コロナ禍により活動休止中

☆食べあるukai?(グルメの会)☆ (25名)

【世話役 櫻井正廣 (S46年卒) 連絡先 msgemini30@gmail.com TEL 090-1767-1617】

コロナ禍により活動休止中

☆ボウリング同好会☆ (15名)

【世話役 給田俊哉 (S43年卒) 連絡先 t.taida-vn@i.softbank.jp TEL 090-6540-3927】

コロナ禍により活動休止中

(追加投稿) 隅田川を歩く

健康と暇つぶしのため、隅田川を歩いてみようと思い立ちました。

2022年10月20日から始め、2023年1月10日までの6回で巡り終わりました。

1回の歩数を自宅往復で2万歩程度として、年相応に無理せずに歩いてきました。

隅田川に架かる39橋と、隅田川と接する川の一番河口にある14橋の計53橋を歩きました。

人が渡れない鉄道橋や水道橋などが10橋ありますが、それ以外は必ず橋を渡ります。

隅田川は両岸が「隅田川テラス」として整備されています。まだ未整備の箇所もあり、そこは川沿いの道を探しながら迂回しますが、全体としてはとても歩きやすく気持ちのよい河岸の道になっています。

一番上流は荒川との分岐点にある旧岩淵水門（赤水門）、一番下流は東京湾手前の築地大橋です。

途中、千住近辺から下流では、隅田川と橋とスカイツリーが3点セットになっており、スカイツリーが東京の名所として親しまれていると感じました。

全てカメラを持って歩きましたので、帰ってからの写真整理も楽しみの一つです。

隅田川が終わりましたので、しばらく時間をおき、次は神田川や野火止用水を歩いてみようかなと思っています。

<写真は、始点の「旧岩淵水門（赤水門）」、今は跳開しない「勝鬨橋」、
いかにも浅草という図柄の「吾妻橋」、一番優美と言われている「清洲橋」です。>



<田中 康之 記>

☆今後の活動の予定☆

2023年03月18日 第15回誕生会

2023年04月16日 第9回定期総会

☆会員の情報☆

会員数 76名（2023年1月1日現在）

新入会員 鈴木秀平さん

退会会員 堀川勝夫さん（ご逝去）、澤田和朋さん

会員通信 原稿募集！！

会員の皆様からの原稿や写真を募集致します。テーマは「塾、東村山」を始め、特に限定は致しません。掲載の可否は役員会で決定致します。誌面の都合上写真の取捨選択を含め若干の手直しをお任せ頂きたいと存じます。文字数は200～400程度で「氏名、卒年、学部」を添えて次の応募先に応募してください。

郵 送：〒189-0014 東村山市本町3-9-10 東村山三田会 会員通信 原稿応募係 廣田眞一

メール：higasimurayama_mitakai@yahoo.co.jp

ホームページ 投稿募集！！

同様に、ホームページ掲載する会員の皆様からの原稿や写真を募集しています。

字数や写真枚数の制限は会報より大きく、かなり自由な表現が可能です。

投稿される方は、ホームページ担当（田中）までご連絡ください。

メール：vvtanaka@m7.gyao.ne.jp

編集委員 廣田眞一・斉藤忠義・田中康之